

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会

MSW ニュース 11月号

2014年11月1日発行

事務局：大浜第一病院

〒902-8571 那覇市天久 1000 番地

TEL (098) 866 - 5171

FAX (098) 864 - 1874

E-mail t-matayosi@ns.omotokai.jp

編集：親川 尚貴（池田苑）

回復期リハビリテーション病棟協会

第17回ソーシャルワーカー研修会（管理者研修）の参加報告

沖縄リハビリテーションセンター病院 大城将平

平成26年10月4日～5日東京にて回復期リハビリテーション病棟協会主催の第17回ソーシャルワーカー研修会（管理者）が開催されました。ソーシャルワーカーの管理者としてマネジメントに必要な知識・視点についての学びと「リーダーシップ」「人材育成」「労務管理」「組織運営」というキーワードで講義・ワークショップが行われました。

日本福祉大学の田中千枝子教授からは「回復期リハビリテーション病棟ソーシャルワーク部門の管理とは～スーパービジョンとマネジメント～」のテーマで講義がありました。スーパービジョンは「支援者支援」を目的とした人材養成の一つの方法ですが、バイザーとバイジーの相互関係性を軸に組織運営と当事者支援を背景に社会に向けたサービスの質の保証を行うものとありました。サービスの保証にはバイジーの支援者としての成長（ミクロ）と、組織としての支援の質の担保（メゾ）という2つの目的が同時に存在し、スーパービジョンによって組織運営と人材育成を同時に図ることが求められています。他職種連携が中心となる医療現場では同職種への教育的機能だけではなく、他職種・組織・地域社会に向けた管理運営機能の発揮もソーシャルワーカーのスーパービジョンと捉え、今後はメゾレベルの介入を常に頭に入れて実践していかなければならないと感じました。またソーシャルワーカー部門を一つのチームとした時、メンバーの自律性向上と専門性の向上が管理職の任務とあり、理念やミッションの共

CONTENTS

回復期リハビリテーション第17回ソーシャルワーカー研修会（管理者研修）参加報告	1～2
10月定例会報告	2
めだかの学校参加報告	3
理事会会議録	3～5
福祉の窓	6
コラム	7
編集後記	8

有・目標や目的の共有などチーム力を高める為のマネジメントが必要とされます。まずは組織の目的にコミットし、メンバーがやりがいと成果をあげられるようなチームを目指していきたいと思います。

10月定例会報告

牧港中央病院 友寄 彩

10月8日（水）あやかりの杜にて10月定例会が行われました。今回は事例検討、九州医療ソーシャルワーカー協会大分大会予演会でした。

〈事例検討について〉

事例提供者は中部徳洲会病院の兼次さん、バイザーはハートライフ病院の奥平さんで、「地域で孤立した患者様への支援—MSWとして出来る事は」という事例でした。役所や包括等の各機関との連絡・情報共有体制の基盤をしっかりと作ることはもちろん、院内でもMSWの役割をしっかりと周知し、早期介入依頼に繋げる仕組み作りの必要性を学びました。

〈九州医療ソーシャルワーカー協会大分大会予演会について〉

今回の予演会は、ハートライフ病院の西田さん、大浜第一病院の當銘さん、那覇市立病院の伊禮さんが発表してくれました。

西田さんの発表では、「再入院を繰り返さなくなった慢性心不全患者の支援について～多職種連携で見えてきたこと～」として、入退院を繰り返している患者に対しての多職種によるチーム医療での支援の必要性や、再入院を繰り返さないために社会資源を利用しながら生活環境を整える事の重要性を再認識しました。

當銘さんの発表では、「中堅者自主勉強会を立ち上げて～“めだかの放課後”立ち上げから現在まで～」として、平成25年6月に立ち上げた研修部である“めだかの放課後”の活動内容や、活動を通じて日常業務へのモチベーションの向上、MSW同士のコミュニケーションが密になったことなどが上げられていました。比較的新しい研修部なので日々新しいことにチャレンジをしながら活動を進めており、今回の取り組みを聞いて更に先輩方が頼もしく感じました。

伊禮さんの発表では、「MSWとCMが協働する“入退院支援連携デザイン”の取り組み～医療・介護の情報共有シートの活用～」として、役所や包括等と話し合いを持ちながら各機関の困っている事や要望をまとめ、また医療と介護がスムーズに連携できるような入退院支援に活用する情報共有シート作りに取り組んでいました。各機関が情報を共有することで今まで以上に患者さんにとって最適な環境を選択することができると感じます。発表者のみなさん、お疲れ様でした。MSWの方々の活動の様子を聞き、とても勉強になりました。西田さん、當銘さん、伊禮さん、九州大会も頑張ってください！！

めだかの学校参加報告書

沖縄協同病院 玉那覇夏汀

10月14日ハートライフクリニックにて行われました、めだかの学校に参加してきました。

今回は、大浜第二病院の安慶名さんに講義をしていただき、「回復期リハビリ病棟におけるMSWの役割について」をテーマに、回復期リハビリ病棟と療養型病棟の施設基準を中心に学びました。

回復期病棟とは急性期病院治療を終えた方が、集中的にリハビリを行う病棟です。疾患により、入院できる期間が2ヶ月～6ヶ月と決まっています。

入院する患者さんのうち、一定の割合で重症度・看護必要度の高い方の入院が必要であることや、リハビリが出来高で算定されることなどを知ることができました。

また、今回のめだかの学校の参加を通して、回復期病棟のMSWから、転院調整をするにあたり、伝えてほしい情報も聞くことができ、とても充実した勉強会となりました。今後も積極的に参加していきたいと思います。



平成26年10月運営委員会議事録

参加者：樋口（司会）、新垣、當銘、望月、奥平、安慶名（連絡）、新城、伊禮（記録）

*研修部：望月（ハートライフ病院）

宿泊研修について（勇美記念財団助成）

日時：11月22日（土）14：00～18：00

11月23日（日）9：00～12：00

場所：勝山病院 1階会議室（名護市屋部468-1）

宿泊先：リゾネックス名護（懇談会も名護市内予定）

内容：第1回いのちとこころとくらしをサポートする在宅医療研修会

「本人・家族・多職種で行うカンファレンスのポイント」

～MSWとケアマネの専門的視点を共有する～

講師：片岡 靖子氏（久留米大学文学部社会福祉学科准教授）

※2日間両日参加をお願いします。

※宿泊研修会となります。（宿泊は希望者）

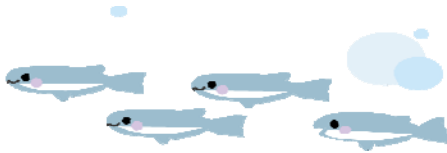
※事前の申し込みが必要ですので、詳細は別紙を確認ください。

めだかの放課後

日時：11月9日（日）10：00～16：00

講師：小原眞知子氏（東海大学教授）「退院支援の自己評価について」

場所：那覇市立病院



めだかの学校

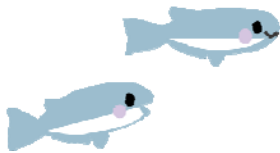
日時：平成26年11月18日（火） 19：00～20：30

場所：与那原中央病院 2階第一会議室（与那原町字与那原2905）

内容：特定機能病院におけるMSWの役割

講師：石郷岡美穂氏（琉球大学医学部附属病院）

12月の予定：12月9日（火）：苦情対応



中堅者研修会

日時：平成26年11月9日（日） :00～:

場所：那覇市立病院 3階講堂（那覇市古島2-31-1）

内容：退院支援の自己評価について

講師：小原眞知子氏（東海大学健康科学部社会福祉学科教授）

※申込みが必要です、詳細は別紙を確認ください。

■その他

- ・「胃瘻増設の問題から高齢者の終末期を考える」アンケート結果報告
- ・研修部事業計画・課題の確認

*** 広報部**

- * 11月号の編集担当：親川氏（池田苑）

*** 社会活動部**

- * 10月13日（月）県協会一般市民向けイベント（イオン具志川）→213名の参加があった

*** 事務局**

- 新規会員：1名（慶田城ひかる：那覇市立病院）
- 移動会員：1名
- * 11月8日（土）「社会福祉法人の未来を考える緊急フォーラム」
場所：沖縄科学技術大学院大学
- * 県知事選に向けての質問状：各立候補者に投函済→11月7日 4団体の集まり
11月12日 記者会見予定

次回理事会：11月17日（月）18：30～ 司会：新垣 書記：新城 連絡係：泰





医療・介護現場が抱える胃ろう造設の課題や終末期の在り方について話し合った結果を報告する参加者ら＝24日、南風原町新川の県医師会館



胃ろうは高齢や病気のために食べ物をのみ込む機能が落ちたことから必要性が低い患者にも造設されることを疑問視する医療関係者もいる。国内ハートライフ病院のMSW、望月祥子さんは「胃ろうには「光と影」がある。治療とし

「納得して意思決定へ」
安全で苦痛を和らげ、食事を再開するためのリハビリの道具になるという光の部分。一方で造設しても食べられない回復が見込めない人も多く、栄養を安定的に摂取できるため、部分を除ける道具という影の部分があり、その意味合いが強くなってきた」と報告した。望月さんは胃ろう造設として日本老年医学会のガイドラインを提示。「胃ろうなどを導入する場合、本人や家族と話し合い、納得してもらって意思決定してもらったことや、本人の生活の質が高まる、もしくは悪くしないことを目指すことが必要になる」と強調した。

MSW協会 老健相談員 終末期医療を議論
県医療ソーシャルワーカー(MSW)協会と県介護老人保健施設(老健)支援相談員連絡会は24日、南風原町新川の県医師会館で合同研修会「胃ろう造設の問題から高齢者の終末期を考える」を開いた。約100人の相談員が参加し、高齢者への胃ろう造設について医療・介護現場が抱える課題などについて焦点を当てながら、終末期医療の在り方を探った。(大綱雅俊)

胃ろう造設に「光と影」

南風原



安全で苦痛を和らげ、食事を再開するためのリハビリの道具になるという光の部分。一方で造設しても食べられない回復が見込めない人も多く、栄養を安定的に摂取できるため、部分を除ける道具という影の部分があり、その意味合いが強くなってきた」と報告した。望月さんは胃ろう造設として日本老年医学会のガイドラインを提示。「胃ろうなどを導入する場合、本人や家族と話し合い、納得してもらって意思決定してもらったことや、本人の生活の質が高まる、もしくは悪くしないことを目指すことが必要になる」と強調した。

参加者らはグループを組んで胃ろう造設に関する課題や相談員としてできることについて話し合った。患者の意思決定支援のため、相談員が早い段階で患者本人や家族に胃ろうのメリット・デメリットを伝えることが重要だ。「医療機関と介護機関が方針を擦り合わせる必要がある」となどの意見が上がった。

人別や人工呼吸器の使用などの終末期医療の選択で、高齢者本人や家族を支援することが相談員には求められる」と望月さんは指摘。「選択できる態勢を」

くるとともに、(高齢者の最期を担う)老健施設だけでなく、急性期や回復期病院など地域の医療・介護施設が話し合う必要がある」と語った。

～ 琉球新報 2014年 10月16日(木曜日) ～

医療と介護知識パネルで紹介するまでワーカー協会の「うるま」医療と介護の仕組みとお金についてのパネル展示会が13日、うるま市前原のイオン具志川店で行われた。

【うるま】「医療と介護の仕組みとお金」についてのパネル展示会が13日、うるま市前原のイオン具志川店で行われた。

写真。医療機関で相談などを受け付けている医療ソーシャルワーカーの職能団体「県医療ソーシャルワーカー協会」が初めて開催した。多くの家族連れが訪れ、介護や入院の制度などのクイズに答えながら、学んだ。

パネルには介護保険サービスに必要な手続きや、病状やリハビリなどの段階によって入院する病院などが違う制度などを盛り込んだ。

訪れた人は「必要だけども普段はなかなか分からない」などと話しながら、知識を学んだ。

コラム

●ある日の相談室●

担当：M・S

●・・・MSWって“しつこい”かな～?? (笑)・・・

Tさん(女性)69才、独居とは、外来からの助けてコールで関わりました。糖尿病悪化のため入院するために来院したものの、外来の待合室で便失禁をしており看護師が対応に追われていました。聞くと心療内科にも通っていて、薬もらっているとのこと。まずは本人の自宅に行くことを決め、意を決して本人を連れて自宅までいきました。(外来看護師からは手袋やマスクなどをいただいで)案の定、自宅内は尿失禁で汚れており、本人の寝ているベッドの周りはおみであふれていました。自宅に薬がなかったため心療内科へ一緒にいき、そのあと病院へ戻りました。

入院となったTさんですが、前回の入院時もすぐに退院するといって退院した経緯がありました。入院後すぐに、息子や担当ケアマネを呼びカンファレンスを行い、高血糖のため、約1か月の入院が必要と判断されて、ストレスなく入院継続できるかが課題でした。息子から「ちゃんと治療しよう」「このままだと死んじゃうよ」ときつく話をされた後は素直に聞いていましたが、徐々に入院生活があきてきたのか、帰るといって聞かなくなりました。病棟師長、MSW、ケアマネにも来てもらい入院継続を説得しましたが、「あんたたちはしつこいからいや」「あたしはさっぱりした方がいいの」といって聞きません。最終手段として、外泊という形を取り、自宅へ連れていき、仕事で忙しい息子へ朝には戻るように説得してほしいと連絡をしました。翌朝、息子と戻ってきたときには、また素直な??Tさんに戻っていました。それから週1回の外泊を息子に対応してもらい、なんとか血糖コントロールもでき退院許可が下りました。退院前カンファレンスでは「おいしいものばかり食べません。もう入院はしたくないからちゃんと生活します。デイケアもちゃんといきます」と宣言して帰っていきましたが、どうなることやら...



編集後記

楽しかった夏も終わり、秋風が気持ちいい季節になりましたね。秋は「スポーツの秋」、「読書の秋」、「食欲の秋」と言われるように何をするのもいい季節で秋が好きの方も多と思います。私の食欲に季節は関係ないようで、秋になる前に太ってきたので今年の秋はスポーツを目一杯に頑張っ、その後に美味しいお酒を飲もうと思っております！！

お忙しい中、原稿を快く引き受けて下さった皆様、ありがとうございました！

※10月から、MSW 協会のホームページがリニューアルされています。ぜひご覧下さい！ご意見、ご感想もお待ちしております♪

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会のホームページ

URL：<http://www.msw-oaswhs.jp/>

